

平成 29 年度の川部会の活動計画

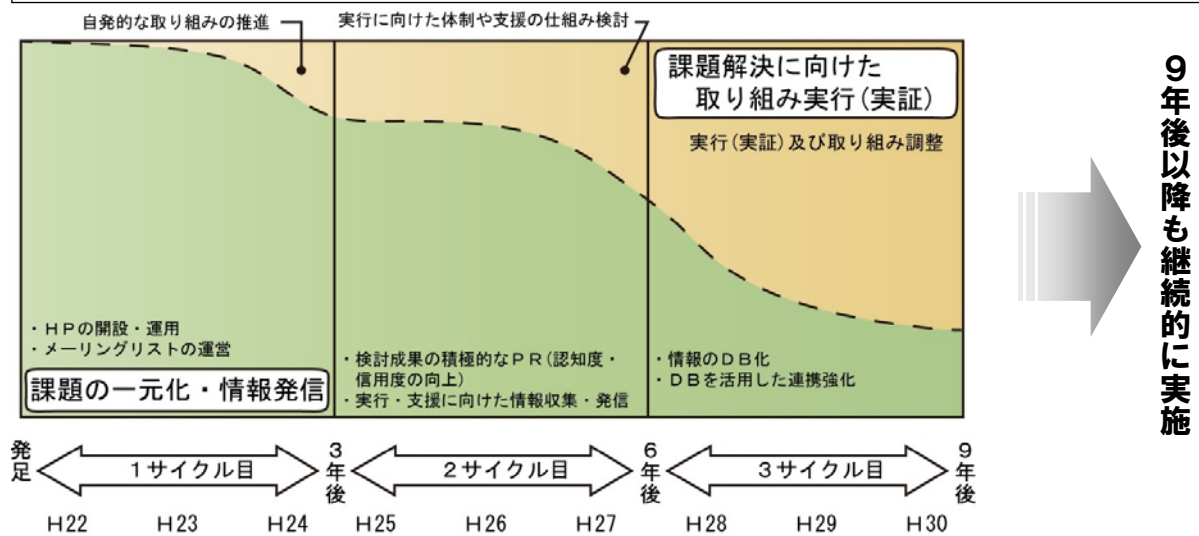
1. 懇談会の活動経緯と運営方針について

1.1 懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

1.2 懇談会の運営方針

- 懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営
- 今年度からは、3サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」へシフト



2. 部会の3ヶ年の目標（平成 28 年度～平成 30 年度）

活動にあたっては、「矢作川水系河川整備計画」に基づき、調和のとれた矢作川流域圏の実現に向け、学識者、関係団体、関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題の解決に取り組むことにした。

昨年度までの活動に対する課題や意見から、今年度以降の3ヶ年の目標（第5回全体会議承認事項）を以下に示す。

- これまでの検討をもとに、他地区、他支川へのモデルとなる取組みをとりまとめ、流域圏全体に対して広く情報共有、情報発信していく。
- 具体的な取組み箇所について、継続的なモニタリングと順応的管理を実践する。
- 関係する委員会、自治体、団体と継続的に意見交換することにより、積極的な連携を進めていく。

3. テーマ別の来年度の活動計画

活動は、流域圏懇談会メンバーが主体となって実行し、必要に応じて関係者で地図や検討資料を囲んだ意見交換を実施する。

3.1 本川モデル

活動課題

- ・生き物の棲みやすい川づくりをテーマとした上下流問題
- ・多様な物理環境と生物生息環境の創出

来年度活動案（例示）

- 白浜工区周辺のモニタリングの継続実施による土砂・水位・地形・植生等の相互作用関係の把握（大同大・鷲見研究室）
【対応する課題：ポイント③ 川の微地形の多様性消失】
- 加茂川の段差改善を目的とした自然石による魚道の設置・モニタリング
【対応する課題：ポイント① 生き物の移動阻害】
- 関係する取り組み（矢作川総合土砂管理、天然アユ生態調査実行委員会、愛知県における石組埋設等による河道保全対策等）における検討状況の把握と意見交換の実施
【対応する課題：ポイント② 河床のアーマコート化】
【対応する課題：ポイント③ 川の微地形の多様性消失】
- 河川環境に関する基礎資料の成果（愛工大・内田研究室、大同大・鷲見研究室における研究成果）や河川環境図を用いた将来のあるべき姿に関する意見交換の実施
【対応する課題：ポイント③ 川の微地形の多様性消失】
【対応する課題：ポイント④ 在来種の減少】
【対応する課題：ポイント⑤ 外来種対策】
- 関係者との積極的な連携・意見交換の実施
【対応する課題：ポイント①～ポイント⑤ 全てに共通】

3.2 家下川モデル

活動課題

- ・生き物の棲みやすい川づくりをテーマとした上下流問題

来年度活動案（例示）

- 家下川湛水防除事業における進捗状況の確認と魚の滞留場に関する情報共有・意見交換
【対応する課題：ポイント① 情報不足】
【対応する課題：ポイント③ 生き物の棲みかの不足】
- ひょうたん池の水量確保・水質改善方法・生物多様性の改善等の検討
【対応する課題：ポイント④ 水量不足】
- 関係者との継続的な意見交換の実施
【対応する課題：ポイント① 情報不足】

3.3 地先モデル

活動課題

- ・地域の人々と川との関係を中心とした、地先の課題（河川空間の利用・保全のあり方）
⇒河川の維持管理活動、河川環境（美化・自然環境）の保全活動、河川空間の利用、啓蒙・文化活動等に関わる課題を対象とする。

来年度活動案（例示）

- 関係者を交えた広域サイクリングロード(自転車・歩行者道)に関する意見交換と現地見学
- 矢作川見どころマップ(仮称)作成に向けた意見交換
- 「山村再生担い手づくり事例集」との連携
- 岡崎市水循環推進協議会における岡崎市水循環創造プランに関する勉強会の実施

4. 流域連携テーマの活動計画

流域連携テーマについては、昨年度の第5回全体会議以降「ごみ・流木」、「土砂」、「木づかい」に関する活動を山・川・海の各WGにおいて実施している。今後の活動計画については、市民会議を早急に開催し、流域間交流イベントの開催等の取組みを含めて意見交換を行う。